

## 建設候補地周辺自治会説明会要旨

1 説明会 一般廃棄物最終処分場建設候補地周辺自治会説明会（第7回）

2 開催日時 令和5年9月23日（土）午後1時30分から午後2時40分まで

3 開催場所 マリアージュ

4 参加者 12人

5 事務局

石川隆明副管理者、佐藤正幸事務局長、菅原彰一関清掃センター所長、  
蜂谷敏志大東清掃センター所長、吉田健総務管理課長、菊池弘施設整備係長、  
石川勝志主査、日下尚也主事

一般財団法人日本環境衛生センター4名（以下、日環センター）

株式会社建設技術研究所2名（以下、建設技研）

6 説明

新一般廃棄物最終処分場に係る生活環境影響調査の実施（案）について

7 あいさつ

本日はご多用の中、説明会へ参加いただいたことに対し感謝を申し上げます。新最終処分場に係る第7回の説明会となる。

本日は生活環境影響調査について、調査の根拠、目的、内容の案を説明させていただく。忌憚のないご意見、ご質問をいただきながら、できる限り共通理解を図って参りたい。

8 説明内容

新一般廃棄物最終処分場に係る生活環境調査の実施（案）について

配付資料により事務局及び株式会社建設技術研究所担当が説明を行った。

9 質疑応答

参加者 現地調査について、騒音・振動の調査が1日となっているが、1日で結果は分かるものなのか。

建設技研 日々変動する部分もあるが、1日間、24時間調査することにより、おおよそ把握することはできる。廃棄物処理施設生活環境影響調査指針でも24時間の測定とされており、今回はその指針を基に設定させていただいた。

参加者 1日間で結果が分かるのかが聞きたい。1年間のスケジュールであれば1ヵ月間実施するなどの対応ではないのか。詳しく説明して欲しい。

建設技研 騒音・振動は道路交通の影響を受けやすいが、秋季としているのは祝日等の影響を受けづらく、比較的安定した交通量での調査が見込める時期であるため

ある。

平日としているのは、平日の持ち込みが前提であるためである。

365日見ていけば変動もあるが、今回は年間のうち、代表的な1日ということで選定した。

参加者 生活環境影響調査は1年間かけて安定した時期や、そうでない時期もくまなく調査されるものだと考えていた。しかし、安定した時期に1日という説明があり、調査に意味があるのか疑問に感じた。

1年間調査するのであれば1回ではなく、多い時と少ない時など、条件を変えて複数回調査して欲しいと思う。たった1回の調査で適地であるとされても納得がいかない。

また、各調査について、第1期埋立場所のみの記載となっている。第2期の埋立場所の調査計画があるか併せて伺う。

建設技研 騒音・振動が1日というところについては、イベントが少ない、標準的な時期ということで秋季であり、環境省の廃棄物処理施設生活環境影響調査指針においても1日間が一般的とされていることから今回の調査期間とさせていただいた。

1期、2期の部分については、最寄りの住居が近く、より影響が考えられる1期埋立地を中心として調査地点を設定させていただいた。

参加者 調査の箇所については、組合で設定したものか。

事務局 回数、地点数については、環境省で示している指針に基づき組合で設定したものの。

参加者 住民が不安を解消するための要望は通らないということか。

事務局 そういったご意見をいただくために今回の説明会を開催させていただいている。内容の見直しについては、いただいたご意見を基にこれから検討していきたいと考えている。

参加者 2期の埋立地から山を挟んだ近いところに自宅があり、騒音、臭気等について不安である。近隣の高校からの音が自宅まで届いているため、埋立地の騒音は必ず自宅に届く。その周辺の地区への説明がない。

また、山を挟んだ周辺では地下水を使用している方がいる。建設候補地のごく周辺には配慮があるが、少し離れたところへの配慮が足りないと感じる。

事務局 騒音やその他調査は、一番近い住居等、影響が大きいと思われる地点で行うため、調査地点の予測値に支障が無ければ、その他地点より遠いところでも支障がないということである。

また、地下水についても調査することとしている。

参加者 地下水は、北ノ沢地区の埋立地近くの2か所の調査で終わりということか。

地下水には水脈があると思うが、水脈についての調査は行わないのか。候補地から山を越えたような場所は調査を行わないのか。

建設技研 地下水については、先に実施しているボーリング調査結果と地形の状況から、調査地点を上流と下流の2か所としている。埋立地の影響を把握するにあたり、水位を調査することで、水の流れは見えてくるため北ノ沢地区の2地点としている。

参加者 1年かけて調査するとのことだが、何か一つでも問題があれば最終処分場の計画が止まるのか。

事務局 この調査は施設を整備した際の影響を予測し、どういった対策が必要か検討するものである。生活環境へ何らかの影響があるという予測結果となった場合は対策を検討していくものであり、計画自体の良し悪しを判断するものではないことを承知いただきたい。

参加者 施設を建てる前の現状を調査するとのことであり、その後に予測するとのことだが、何を基に予測するのか、判定基準が分からない。

その判定基準に対して何か異常があった場合は、何か対策していくということであったが、本日説明のあった調査項目それぞれに対し、どのような対策を行うのか教えて欲しい。

建設技研 予測については、環境省の生活環境影響調査指針に技術的な手法が記載されているため、それらを基に計算等をさせていただく。予測の前提条件については、基本設計を踏まえて決めていく。

評価については、それぞれの項目について環境基準等があるため、予測の数値と法的な基準を比較し、超える、超えないを判断していく。影響が大きいとされたところには、事業計画の検討、環境保全措置等の対策を取ることになる。

一般的な対策の例として、「粉じん」については埋立地の散水や覆土をする、「大気質」については運行車両の時間を分散させる、「騒音・振動」については低騒音の機械を使用することや、運行車両の時間を分散させる、通学時間を回避する、「臭気」については即日覆土、「水質」については浸出水処理施設設備の検討、「地下水」については掘削する深さを検討する等である。

なお、この対策は一般的なものであり、予測・評価、基本設計を見ながら決定していくものである。

参加者 千厩の皆さんが心配しているのは、ゲリラ豪雨があった場合に北ノ沢川があふ

れ、千厩町内に流れ込んでしまうのではないかということである。

先日発行の防災マップを見ても警戒区域になっているため、非常に心配である。

水質の検査を実施するということであるが、たくさん雨が降った場合の対応、調査はどのように行われるのか。影響についてどう調査するのか。

事務局 豪雨等の影響に関する調査は、生活環境影響調査では行わない。施設の実施設計をしていく中で、どの程度の雨を想定した設計にするかというところで検討していく。

補足として、これまでの説明会で基本設計というものについて説明してきたところであるが、その中では水処理施設の規模について、過去30年間の気象データを基に想定しており、実施設計で詳細を検討していく。

参加者 30年間のデータというのは今までも聞いてきたが、知りたいのは30年間の平均データではなく、今の雨の降り方を一番心配しているため、その点を考慮した対策、計画を提示していただきたい。

選定委員会の資料で、希少動植物がいる場合はその対策を立てるとあるが、その調査は含まれていないのか。

事務局 雨の話については、これまでも説明させていただいてきたが、過去30年間のデータに対しては対応可能な処理能力としている。

もし過去30年間の数字を超えるような場合に、施設の水処理能力を超えたとしても、単純に処理能力を超えた水がただちに未処理で排水されるものではない。埋立地がダム機能を果たして貯水することができ、雨が止んだ後に溜まった水を処理して排水できる。

今回の調査について、生活環境に対する影響が心配であるというご意見を住民の皆様からいただいていたため、組合として住民の方々の不安軽減に努めて参りたいとしてきた。

当調査が最終処分場を建設するうえで必要な手続きであることは当然であるが、科学的な調査を実施し、必要な対策を検討することにより、住民の皆様の不安軽減に繋げるために実施するものである。

事業範囲が限定的な範囲であるため、動物については移動により事業範囲外で生息することが可能であること、植物についても事業範囲内のみの植生の可能性が低いと考えられることから、今回は法に則った項目で提案したものである。

参加者 今回の説明会の案内は周辺自治会の方、区長、地権者の方が対象かと思うが、参加者はなぜこんなに少ないのか。この人数についてどう考えているか聞いた

い。

事務局 組合としても、より多くの方にご参加いただき、ご意見を頂戴したいということで開催させていただいている。できる限り使える手段を使ってお知らせをしており、組合広報、FMアスモ、LINE等を使用し、ご案内している。

土地所有者の方については、土地所有者の方を対象に同様の内容の説明会も開催しているため、そちらにご参加いただいているということもあるかと思う。

参加者 自治会には自治会長達が役員になっている別の組織があると思うが、本日は参加していないように思う。そういった方々には地権者のように別途説明を行っているのか。内容は同様のものを説明しているのか。

事務局 団体への個別の説明は行っておらず、周辺自治会説明会において説明を行ってきている。

参加者 参加者が少ないが、この状況のまま建設を進めて良いと考えているのか。

事務局 施設整備にあつては、周辺自治会の皆様方と様々な場面で話し合いの場を設けながら進めたいと考えている。

参加者 今、地元の自治会というお話があったが、メインは千厩町民であり、そこをはき違えないで欲しい。本日の説明を25日の住民説明会でもするのか。

事務局 本日の内容と同じ内容を説明する。

参加者 本日の説明会は参加者が少ないが、今まで記録されている通り、この少ない人数もしっかり記録していただき、今後の説明会の参考として欲しい。

事務局 説明会終了の都度、説明会の概要を作成し、事務局側の出席者、参加者数、説明概要をホームページ等にも掲載しているところであり、今回も記録として残すこととしている。

参加人数が少ないということに関して、組合として周知には努めるが、より多くの方にお聞きいただけるよう、皆様方にもお声がけいただける範囲でご参加いただけるよう呼びかけのご協力をお願いしたい。

10 担当課 総務管理課